



イラスト：佐藤アモール陽子

PARADISE YAMAMOTO

てまいりました。本日もたたくさんの御予約を頂きましてまことにありがとうございます。それでは、今夜も御一緒に素敵なショーでお楽しみ下さいませ。お待ちどうさまでした。演奏は宮島清二とリスムエアーズの皆さんです。どうぞ大きな拍手をもってお迎えくださいませ”てな具合で巨大なミラーボールにスポットライトがあたり金色の絨帳が上がり、豪華なソファにどっしりと腰を下ろして両脇のホステスさんからお酌してもらおうこの贅沢さ。まさにブランドキャバレーというところ。なんと平成のこの時代にはこんな石原裕次郎や浅丘ルリ子に今にも出てきそうなお店が、まだあるんです。博多のグラウンドキャバレーミナミです。建物はドーム型。昭和四十二年の開店以来、オイルショックやバブルの崩壊もなんのその、現在もバリバ

んの数軒しか残っていません。私は旅先でできるかぎりこういう店を探してはもちろんなんと私がリーダーの東京ラテンムードデラックスというバンドが、賞切とかではなく、平常のキャバレー営業のショーにメインゲストとして出演することになったのです。東京ラテンムードデラックスは、いくらキャバレーのりステージをやって噂になつていっても、まさかホンマモンのグラウンドキャバレーのしかも平常営業の日に出演するのは、洒落がキツイというか、私も最初信じられませんでした。2日間のステージとも大入満員で、ステージの上から我々の演奏にあわせて楽しそうに踊る客とホステスさんらも、興にのって、ボールのソリマチアキラに向かって「ヨッ、橋幸夫!」とか叫ばれ

1万ボルトくらい流れたりしてしまいました。メンバー五人に女性ボーカルとセクシーダンサーの二人を加えて計七人で、東京から楽器と一緒にワンボックスカーでちんたらと行つたのです。もちろん運転手は私、バラダイス山元自身。このつづきは次号で。博多グラウンドキャバレーミナミ連絡先 092・771・2381

着倒れ京都人に送る。

ササイな情報

15

ソウルに行っていたという、「何をしに?」と変な顔をされるが、勿論デザイナーの取材にである。

ファッション業界以外の人にはあまり知られていないかもしれないが、パリコレと東京コレクションの間に開かれる「ソウルコレクション」がシーズンを重ねることに充実し始めている。実際にコレクションがスタートしたのは90年頃で、91年には12人のデザイナーが作品を発表するだけだったのが、今年4月の初めに行われた94・95年秋冬コレクションでは17名のデザイナーがショーを開催している。イー・シン・ウーやチン・テ・オクといった韓国を代表するデザイナー達はパリコレでもショーを行うようになっており、ソウルでもビッグネームの存在である。

今回ソウルへ行ったのは、ソウルコレではなく、もっと若いデザイナー達に会うこ

とが目的だった。ソウルコレクションに出るお金がないような新人たちは、どうしているのだろうか?と見て回ると、日本のデザイナー達はよりかはるかにしっかりとやっている。ソウル市内にあまたある百貨店で自分でブティックを出し、リスクを張って商売している。その状況はちょうど日本の10年ほど前と似ていて、いわゆるDCブーム商品自体は面白いものもあるが、こちらが想像しているよりずっと高い。ジャケットで5万円強、スーツで10万円前後という

と本当に10年前の日本のブームと同じ。品質も同レベル。トレンドが似通っているのも当時の状況と一緒に。ショーで発表するものはかなりアバンギャルドでも、実際に店ではベーシックなものが並んでいたりするものもその当時を思い出す。

面白いのはオリビック以降、振興エリアとしておしゃれな店が並ぶアップジョン

プロフィール 1959年京都生まれ。流行通信社・デパート編集者。ファッション情報誌「10年」の編集者。91年「ファッション」に「世界のファッション」の連載。海外デザイナーの紹介。ホト。

ドンのカフェバーで、「オレンジ族」なる若者たちが夜な夜な集まるという現象。女の同志の客に男がオレンジ族を頼み、それを女の子が飲むとナンパOKというサインで、男の子たちはDCブランドでキメている。ソウルでもお金持ちの息が多いらしいが、この「オレンジ族」以外に車でナンパしまくる「ヤツタ族」というものもあるらしく、こうなっていると男も女もお洒落に金を使ひ出すというのには世界共通。

「ナンパに成功しても女の子に名前や電話番号なんて聞くと、クレイジーだと思われるから気を付けて」と、通訳のチャ君はいらぬ気を使ってくれたが、結局、NBAのセミアファイナルが気になったので、一人でホテルに早く帰ってしまったのが少く残念。さて、その若いデザイナー達のなかでソウルではまだあまり知られていないのだけれど、圧倒的に印象に残ったのが「ミフ

ア・ホン」。昨年、パリコレ期間中にパリの公園でデビューショーを開き、そのショーは聞いていた。その時のコレクションが並んだブティックが4月29日にソウルのアップジョンドンにオープンした。裏通りで少し分かりにくいのだが、商品は面白い。生成りのガーゼのブラウス、韓国らしい原色のワッシャーの生地をパッチワークしたワンピースなど、ショーで発表した作品と同じもの。今年3月のパリコレでもショーを行い、9月にはパリでショープもオープンするらしい。今のところ、彼女の服が買えるのはこのソウルの店だけ。東京でファッションを勉強し、日本語も話す彼女ながら、日本ではまだ扱っていない店はない。ダーク・ピッケンバークやマサキ・マツシマのオンリー・ショープがある京都でなら、きつと彼女の服も売れるハズだけど……。

NODA TATSUYA

【プロフィール】 元東京ハノラママポニーイズのリーダー。富士重工工業デザインセンターで、カーデザイナーとして活躍していた。初代レオガシウツリングワゴン、アルシオ、ネS V Xなどのデザインを手掛ける。新番組「土曜夜7時から」の「テレビの上様」(TBS系)でもマンガ家ソリマチアキラといっしょに東京ラテンムードデラックスも現在全国ツアー中! タイムスツアーズと共に9月にいよいよ京都へ出演する。今後クラブのフライヤーは要チェックね!